

Y K G

Yutaka Kikutake Gallery

6-6-9 2F Roppongi, Minato-ku, Tokyo 106-0032, Japan
Tel: +81 (0)3 6447 0500 Mail: info@ykgallery.com
www.ykgallery.com

和
巧
絶
佳

わこうぜっか

CONTEMPORARY JAPANESE CRAFTS
REINTERPRETATION, EXQUISITE CRAFTSMANSHIP, AND AESTHETIC EXPLORATION

令和時代の超工芸



新里明士

Niisato Akio



Q1
 大学では哲学専攻でしたが、何かを表現したいという気持ちには飽いていました。たまたま出会ったやきものにも他のジャンルと同じくらい表現の可能性を感じ、従来の多量産物陶磁器芸術研究所に入り直しました。

In college I majored in philosophy, but I always had a feeling I wanted to create something.

One day I encountered ceramics in which I detected a creative potential equal to other games and switched to the Tajimi City Pottery Design and Technical Center in Gifu.

Q2
 特定の人は思い浮かびませんが、陶磁器に関わった先人たち、同時代の作家、そしてこの分野に関わっている若い人も同じような尊敬の念を持っていたと考えています。

I can't think of anyone in particular. I feel that everyone involved with ceramics, predecessors, contemporaries, newcomers, deserves the same respect.

Q3
 宋代の青磁、色や形はもちろんです、その概念としての「美しさ」を体現していると感じました。

Song Dynasty celadons. The color and the form, of course, but even more how they embody a particular concept of "the beautiful."

Q4
 やきものや工芸を通して、いろいろなことと関わっていかねば、と思います。

制作としては、生涯をかけてたくさんのお地で制作しながら、自身のやきもの観を磨いていきたいです。

Through the craft of ceramics I can become involved with all sorts of things.

My work? I want to spend my life working in as many different places as possible, to expand the horizon of the ceramics I produce.

Q5
 8:00 起床 お茶 風呂
 9:00-12:00 制作
 12:00-13:30 食事 休憩
 13:30-18:30 制作

8:30 Get up, Drink tea, Take a bath.
 9:00-12:00 Work.
 12:00-13:30 Eat lunch, Rest.
 13:30-18:30 Work.
 18:30-21:00 Eat dinner, Take a bath.
 21:00-2:00 Work.
 3:00 Go to bed.

During firing, my work schedule is determined by the kiln.

Q6
 制作を止めたときや多岐にわたる材料、素材や技法を駆使して制作していません。

Please tell us what made you decide to become an artist. Then, please explain the reason for your choice of materials and techniques.

Q7
 制作しているのはほとんどです。その過程を大切にしたい。

I think processes are particularly important. I don't skip any step.

Q8
 陶磁器は千年前から存在して、その過程を大切にしたい。

It has existed for thousands of years. I think processes are particularly important. I don't skip any step.

Q9
 これからの制作を大切にしたい。

I think processes are particularly important. I don't skip any step.

Q10
 何かがあつた瞬間や制作の瞬間に感動を感じていて、それが制作のモチベーションになっています。

What supports it is an average day when you are creating a new work?



新里明士 Niisato Akio



1977 千葉県流山市生まれ
 2004 多岐量産物陶磁器芸術研究所修了
 2011 文化庁海外芸術家派遣研修員
 (ロンドン、アメリカ)
 http://niisatoakio.xd.com

器に用途がある限り、クラフトなか造り作品なのかといった問いがついてくる。新里明士は、自身の作品にもたらされるその問いに向き合いつづけてきた作家である。

新里は、早稲田大学の美術クラブで陶芸に出会い、その後多量産物陶磁器芸術研究所でやきもの専門的な技術を学んだ。2001年に産研研を修了した後、ほどなくして国立美術館でのグループ展に出品されるなど、早くからその才能が認められた。2007年には第2回陶芸工芸フェスティバルに出展され(その後2009年には奨励賞を受賞)、翌2008年にはパナマ陶芸大賞展で大賞および国際陶磁器賞展で審査員特別賞を受賞するなど、受賞多数。

また、2011年には文化庁の新進芸術家海外派遣研修員として1年間アメリカのボストンに滞っているが海外経験はアメリカにとどまらず、2005年にファエンツァ国際陶芸展新人賞を受賞したことをきっかけに、現代陶芸の聖地の一つであるイタリア・ファエンツァに何度もたびたび現地制作を行っている。若手のホープと言われた新里も不惑を越え、なおも真摯にやきもの対峙し挑戦を続けている。

磁器の透光性を生かした 滑らかなシリウスで 新たな形状に挑戦

新里は本展に《光器》(cat. nos. 76-80)、《光蓋器》(cat. nos. 81-82)、《容器》(cat. nos. 83-85)の三つのシリーズの作品を出品している。

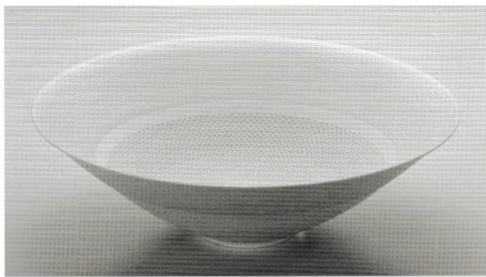
《光器》は新里の代表的シリウスで、磁器の透光性を生かした造手技法により滑らかな佇まいで人気を博している。一般的には華やかな印象を与える造手技法であるが、《光器》は計算された穴の配置により、シャープでありながら温かみをも併せ持つ作品である。しかしこの技法は、器面に穴を開けることで制作中の耐久性に難がある。これまでの《光器》の形状はほぼ直線であったのはそのためである。出品作で作家が新たに挑戦したのは、技術的にはより難しいが、光を作品に取り入れやすくする口の開いた形である。今回新里は、構造上の問題を克服し美しい作品を生み出すことに成功した。《光蓋器》は同じく造手を用いているが、より軽やかなクラフト作品として私たちに寄り添うものである。

《容器》は、穴を埋めないことで、彼らを意識できる構成となっている。新里は造手を用いながら光と磁器の関係性を開いてきたが、器としての光を研究し続けた結果、近年、色と形態の問題にも強い関心を持つことに至り制作された作品である。

展覧会	開催地	開催年
2018	「Oltre Giapponese AKIO NISATO」カトリック美術館、ファエンツァ(イタリア)	TREVILLE NIPPON PROJECT 中野区美術館(日本工芸) パナニエツの造りワークショップ 東京
2017	「高橋実業美術展100周年記念 新里明士 Luminescence」美術館(香川、大分、長崎、徳島)	2014 「Dialogue with Materials」Ahmed Adnan Saygun Sanat Merkezi (トルコ)
2016	「特別展 現代の作家による 高橋実業美術展(現代) 建築家 一光寺 伸幸美術館、東京」	2013 「Inemebona contemporary ceramics exhibition, 3rd edition」Galeries Gallery (ルーマニア)
2015	「GAPRONI - FANZA TRUCCO DI LINO SCABO」Galeria comunale d'Arte di Faenza, ファエンツァ(イタリア)	2012 「白の輪」磁手陶器美術館・陶芸メッセ・盛子、岐阜
2014	「Bijungo Ceramica 2014」カトリック美術館、ファエンツァ(イタリア)	2011 「現代工芸への視点-高橋実業めぐり」東京国立近代美術館工芸館、東京
2013	「特別展 現代の作家による 高橋実業美術展(現代) 建築家 一光寺 伸幸美術館、東京」	2008 「ファンタジック陶器展」ファンタジック(イタリア) 2007 「新里明士展」現代工芸の11人 東京国立近代美術館工芸館、東京
2012	「TANUKI 工芸-現代の作家-」多岐量産物陶磁器、徳島)	2004 「IMNO CERAMICS NOW」第1、第2回現代陶芸美術館、岐阜
		2003 第3回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		2002 第2回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		2001 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		2000 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1999 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1998 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1997 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1996 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1995 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1994 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1993 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1992 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1991 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1990 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1989 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1988 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1987 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1986 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1985 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1984 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1983 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1982 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1981 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1980 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1979 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1978 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1977 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1976 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1975 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1974 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1973 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1972 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1971 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1970 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1969 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1968 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1967 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1966 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1965 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1964 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1963 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1962 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1961 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1960 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1959 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1958 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1957 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1956 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1955 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1954 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1953 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1952 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1951 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1950 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1949 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1948 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1947 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1946 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1945 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1944 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1943 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1942 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1941 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1940 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1939 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1938 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1937 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1936 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1935 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1934 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1933 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1932 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1931 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1930 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1929 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1928 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1927 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1926 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1925 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1924 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1923 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1922 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1921 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1920 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1919 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1918 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1917 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1916 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1915 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1914 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1913 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1912 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1911 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1910 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1909 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1908 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1907 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1906 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1905 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1904 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1903 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1902 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1901 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1900 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1899 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1898 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1897 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1896 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1895 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1894 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1893 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1892 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1891 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1890 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1889 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1888 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1887 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1886 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1885 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1884 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1883 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1882 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1881 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1880 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1879 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1878 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1877 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1876 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1875 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1874 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1873 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1872 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1871 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1870 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1869 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1868 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1867 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1866 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1865 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1864 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1863 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1862 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1861 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1860 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1859 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1858 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1857 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1856 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1855 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1854 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1853 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1852 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1851 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1850 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1849 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1848 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1847 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1846 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1845 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1844 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1843 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1842 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1841 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1840 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1839 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1838 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1837 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1836 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1835 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1834 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1833 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1832 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1831 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1830 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1829 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1828 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1827 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1826 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1825 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1824 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1823 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1822 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1821 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1820 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1819 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1818 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1817 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1816 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1815 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1814 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1813 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1812 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1811 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1810 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1809 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1808 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1807 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1806 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1805 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1804 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1803 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1802 第1回現代工芸フェスティバル 国際陶磁器展 東京
		1801 第1回現代



78
光器
luminescent vessel
2020



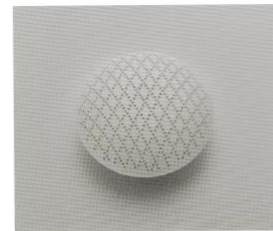
79
光器
luminescent vessel
2020

制作 artist | Nilsato Aho



80
光器
luminescent vessel
2020

制作 artist | Nilsato Aho



81
光器器
luminescent vessel
2020



82
光器器
luminescent vessel
2019



76
光器
luminescent vessel
2019



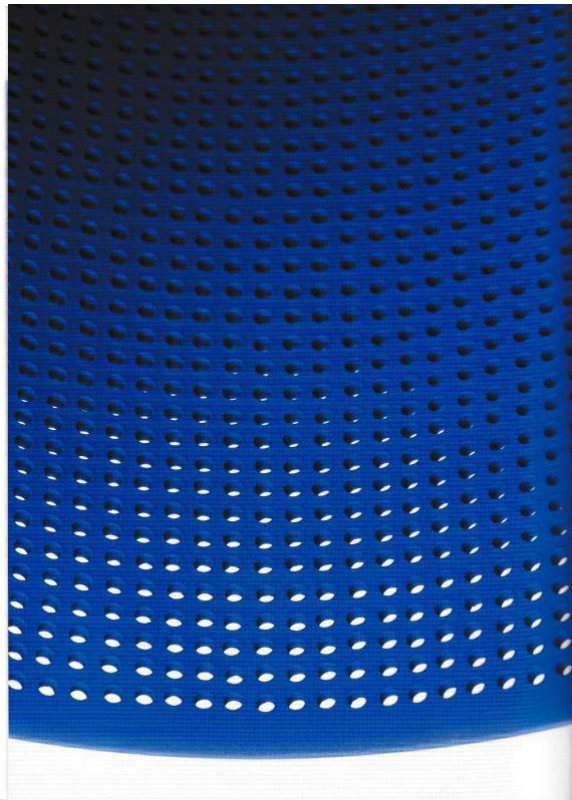
77
光器
luminescent vessel
2020

新妻明子 | Hisako Arai



83
穿器
perforated vessel
2020

新妻明子 | Hisako Arai





84
穿孔
perforated vessel
2020

朝日新聞社 | 701-1010



85
穿孔
perforated vessel
2020

122 | 123

『和巧絶佳展一 令和時代の超工芸』 朝日新聞社 2020年7月18日発行